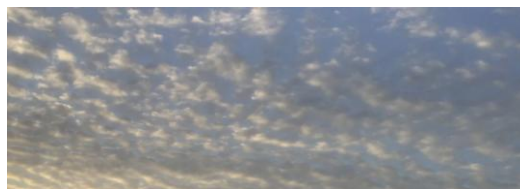


## 2020 年を振り返る

今年 2020 年を振り返ると、写真のように一面雲に覆われた空のような感じがする。手帳のメモを見ると、3 月 4 日から大阪市立大図書館が長期にわたって休館となった。新型コロナ感染拡大によるものだ。まもなく大阪市立中央図書館も休館となり、通い慣れた「行き場」を失い、落ち着かない生活が続くことになる。4 月 8 日に緊急事態宣言が出たからは、自宅にとどまることも多くなった。



大阪市大に通っていた頃は、毎日 8000 歩以上は歩いていたが、コロナ禍以降は歩く距離がかなり減ってしまった。それで足腰が弱ってしまったようで、秋から強めの腰痛に悩まされることになった。足腰を鍛えようと、寒さにめげず、できるだけ歩くようにしているのだが、図書館が利用できない時に通ったのが、大阪市役所「市民情報プラザ」である。市役所の資料を読み、原稿を書いたりする貴重な「居場所」となった。係の人に大変お世話になった。ここで「報道関係資料」や「大阪市長会見全文」などを定期的にチェックしたが、大阪市政をリアルに把握するうえで大いに役立った。

今年の出来事として、トップにあげなくてはならないのが、大阪市廃止・特別区設置の是非を問う住民投票である。地方自治・地方財政を研究教育してきた者として、大阪市民の一人として黙っておれない。そんな思いで情報を集め、レポートを発信してきた。大阪・市民交流会という市民団体に加わり、多くの人と交流し、「語ろうかい」を企画した。そこに参加した人たちと「やまだ塾」なる勉強会を始めることもできた。コロナ禍のなか 7 月に、大阪弁護士会で住民投票について講演したことも忘れられない。

写真は NHK ニュースによるが、9 月 7 日に市民の皆さんとともに、住民投票関係予算の執行停止を求める住民監査請求を行った。住民投票告示直後の 10 月 14 日に陳述した。「合議不調」ということで勧告には至らなかったが、それなりのインパクトをあたえたと思う。もう一枚の写真は 11 月 1 日の住民投票日に、近所の投票所前でポスターを手にスタンディングした自撮りだ。自宅にいても不安なので、思い切って行動に出ることにした。腰痛のため短時間だったが。



それほど厳しい状況であったが、住民投票で大阪市「廃止」をなんとか阻止することができた。草の根の市民の力、市民の良識を再確認した。だが、吉村知事や松井市長をはじめとした大阪維新の会は、大阪市存続を骨抜きにしようと画策している。大阪市民の選択を無視したもので、許されるものではない。今後も維新の動きを注視していく。住民投票「騒動」から学ぶことも多かった。それを研究などに活かしていきたい。

（2020 年 12 月 31 日）